

公民館
通信
No. 319
2025.4 発行

たのしいまち

編集：たのしいまち編集委員

発行：多摩市立永山公民館 ☎206-0025 多摩市永山 1-5 ☎042(337)6661 FAX042(337)6003

多摩市立関戸公民館 ☎206-0011 多摩市関戸 4-72 ☎042(374)9711 FAX042(339)0491

ひと♡ネットワーク

人と人がつながって
全てがすすめる経験になる!



Almonde Musica あるもんで音楽する 代表 やまざわ 山澤 ほなみ さん

「エコベル」はペットボトルを再利用して作った楽器。「創始者」は山澤さん。木琴のバチのようなものが中に入っていて、中で振動させて音を出す。その爽やかな音に驚いた。童謡からクラシックまでメロディが紡がれていく。予想をはるかに超える美しい音色。どうしてこんなに美しい音が出るのだろうか？

もったいない精神を発揮して、どんな物でも再利用を考える山澤さん、ペットボトル内の空気圧で音が変わることを発見し、絶対音感を駆使して1本1本、音を調律していった。中に入れるバチは竹ひごの先に粘土を丸めて付けたもの。重さは？ 当たりを柔らかくするには？ ペットボトルの形によってはちゃんと音が出ないものがある？ その日の天気によっても、その部屋の状態によっても音は微妙に変わってしまう。毎回試行錯誤の連続。本番前の会場で、1時間半かけて1本1本再調整するのを見て「酔狂な楽器だねえ」と笑われたこともあった。

前職は小学校の音楽教員。大好きだった音楽の授業をきっかけに「先生ってステキ！」と思い、夢を追いかけて教壇に立った。簡単じゃなかった

けれど、だからこそ見えた景色がたくさんあった。子どもたちの柔らかな発想や純粹さに励まされ、教えるはずが逆に教わることも多かった。時にはヘトヘトになりながら、それでも毎日が発見と感動であふれていた。でも次第に…理想と現実のギャップに悩むことが増えていき「本当にこのままでいいのだろうか？」そんな問いが、いつのまにか心の奥で大きくなっていった。子どもたちへの想い、自分の無力さ…。たくさん悩んで、悩んで、悩んだ末に、教員生活にピリオドを打った。

自由の身になり、やりたいことをやろうとエコベルとともに人生の社会実験スタート！ お金って何のため？ 幸せって？ 持続可能ってどういうこと？ そんなことを、遊ぶように真剣に考えてみたくて、と話す。そして、自作の台本に音楽をのせて「音楽朗読劇」を開催して楽しんでいる。

団体名はAlmonde Musica ~あるもんで音楽する~。あるもんで、楽しく。手作りで、心豊かに。人生、視点を変えればもっと楽しくなる！ と話す山澤さんは笑顔いっぱい生きる喜びにあふれていた。

今年度多摩市公民館では主に以下の事業を行う予定です!

公 民 館

「つどい・まなぶ・つながる」駅前公民館にどうぞお越しください!



学 校・家庭教育支援の主な事業

子育て支援講座

子育ての悩みなどを共有できる場作りと、自分自身の生き方を考える機会を設けます。また、青少年を取り巻く社会的・教育的な問題などを学ぶ機会を提供します。



子育てつどいの広場「ぴーかぶー」(原則第2・4木曜日)

保育室開放デー(原則第3月曜日)

館内の保育室を開放し、子育てに関する情報提供や、乳幼児期の親子が気軽に交流できる場を提供し、地域の子育て環境の充実に図ります。

小学生等体験講座

地域の人材や大学生などを講師として招き、学校や家庭での体験が難しい講座や、親子や多世代が交流できる講座を通して、経験・知識・視野や、世代を越えた交流などを広めるきっかけを作ります。



学校や地域と連携した事業

公民館の施設を活用したりイベントなどの場を通じて児童・生徒の学習成果を紹介するなど、地域に子どもたちの様子を発信していきます。また、市内中学生の職場体験や事業のボランティアなどの受け入れも行っています。

家庭教育学級・家庭教育講座

子どもたちの豊かな心を育成するため、保護者に対して子育ての知識や生活習慣の重要性などを学ぶ機会を作ります。

市 民・時事問題の主な講座

障がい者青年教室

障がいを持つ青年を対象に、レクリエーション活動等を通して、仲間作りや社会参加へのきっかけを支援します。(ボランティア随時募集!)
青年さんも新規募集中!



市民講座

市民生活の中で身近な課題を取り上げ、生活・文化などの知識を豊かな生活に結び付ける講座を開催します。

地球大学院

市内の大学と連携し、環境・貧困・経済など国際的な課題に対して、社会でできることを考えるきっかけを提供します。

地 域・生 活課題を考える事業

市民企画講座

市民団体から、地域・生活課題などを見据えた企画の実施を支援し、市民の自主的な学習活動を展開するため、広く学習の場を提供します。講座は団体が企画します。

新規応募団体
大募集!



地域生活講座

地域の拠点施設であるコミュニティセンターなどと連携して、地域・生活課題の解決につながる講座を実施し、人づくり・地域づくりにつながる場を提供します。

地域の課題・人材などを掘り起こし、継続した学習から、人のつながりや地域の広がりきっかけを作ります



地 域 活 性 化 事 業

- ・せいせき朝顔市協力企画(7月5日・6日)
- ・永山フェスティバル(9月20日~21日予定)
- ・クリスマスイルミネーション など

地域団体などと連携し、イベントを通して地域を盛り上げます。



ボッチャ体験会



イルミネーション

※過去の取組の様子

市 民 文 化 活 動 支 援 事 業

文化芸術のさまざまな分野をテーマに、市民が主体となって出演・企画運営をする催しに公民館が支援し、気軽に音楽や映像文化などに触れる機会を作ります。

- ・サロンライトコンサート
- ・TAMAシネマフォーラム 11月8日~
- ・演劇フェスティバル
- ・VITA コンサート
- ・What's Jazz



情 報 発 信 事 業

公民館通信「たのしいまち」の発行と広報等情報提供

市民ボランティアの編集委員とともに公民館の各種情報を掲載した通信を年に6回発行しています。編集作業を行っています。また、たま広報等でも事業の案内や募集、実施した講座の報告などを行います。

この一年「ひと♡ネットワーク」に登場された方たちより

この一年もいろんな出会いがありました。「たのしいまち」の顔として、「ひと♡ネットワーク」に登場して下さった方たちに登場秘話・その後のご様子を教えていただきました。

- ① 表紙に出られた感想や反響
- ② 記事への補足、新しい取組や今後の構想など
- ③ 公民館や『たのしいまち』について一言



伊東 伸浩 さん
(永山フェスティバル実行委員会
委員長) (2024/12・2025/1月号)

① 今回が二度目のインタビュー、久しぶりに自身を振り返る良い機会になりました。ご覧になった方からいくつかお声がけを頂き、本人以上に魅力的に伝わったとのコメントが多く寄せられたのが印象的でした(笑)

② 2025年の永山フェスティバルでは、昭和100年を念頭に置きながら今年ならではの取り組みをして行きたいと考えています。具体的なアイデアは企画運営委員会で見られると思いますが、多くの皆さんが楽しめるステキなイベントを目指します！

③ 昔と比べると紙面がとても見やすくなりましたね。特に画像がクリアになって良かったと思います。内容にも楽しさや臨場感が伝わるものが多く、作り手の熱意と愛情がたっぷり入ったスープのようで何だかほっこり(^_^)します。



出岡 由宇 さん
(多摩大学附属聖ヶ丘中学高等学校
探究基幹教員) (2025/2・3月号)

① 本校生徒と一緒に紙面を飾れたことを嬉しく思います。多くの若い人が地域や自治体に興味を示し、活動が活発になることを願っています。どれだけできるかは分かりませんが、ひと★ネットワークをはじめ、様々な場で訴求していくつもりです。

② 多摩市役所の庁内中庭を使って、職員の皆様に向けた生徒のプレゼンテーションをやりたいなあ。普段高校生と触れ合うことが少ない職員の皆さんにとっては、ご自身の日常のお仕事が若い世代の学びに繋がっている実感を得る機会は少ないと思うので、是非体感してほしい。

③ 探究活動にここまで協力してくれる自治体は、少なくとも都内で聞いたことがありません。これは公民館をはじめ、多摩市の協創・共育力の高さの象徴だと思います。市民の皆さんがこの特異かつ豊かな環境を活かすきっかけとして、『たのしいまち』が今まで以上に広がることを願っています。

④ 探究活動にここまで協力してくれる自治体は、少なくとも都内で聞いたことがありません。これは公民館をはじめ、多摩市の協創・共育力の高さの象徴だと思います。市民の皆さんがこの特異かつ豊かな環境を活かすきっかけとして、『たのしいまち』が今まで以上に広がることを願っています。



大村 国博 さん
(日野市中央公民館長)
(2024/4・5月号)

① 自分の仕事を「多摩演劇フェスティバル実行委員会」の方々から「読みましたよ」と言われ、嬉し恥ずかしかったです。

② 引き続き多摩市と日野市の公民館が連携する「多様な学びの場づくり事業：ひのたまULTLAプログラム」にご期待ください！

③ 制作している多摩市の方々の熱意が素晴らしい！



梅澤 佳子 さん
(多摩大学 経営情報学部 教授)
(2024/6・7月号)

① ゼミ生(10年前)に続き取材していただき大変光栄に思いました。地域活動でお世話になった方々から

「読んだよ」と連絡をいただき、紙面を通じてこれまでのお礼の気持ちをお伝えできて感謝しています。

② 多摩大学は開学36年を迎えます。社会課題の解決に向けて産官学民と連携し、研究領域の異なる教員がチームとなって取り組むのが開学当初からの多摩大学の流儀です。多摩を拠点として学び、研究し活動する学生・教職員をこれからもよろしくお願いたします

③ 『たのしいまち』から様々な情報を得ていました。特に「ひと★ネットワーク」は、地域で地道に活動されていらっしゃる方々の思いや考え、活動内容を知ることができ触発されました。



平尾 一彦 さん
(ボランティアTAMA聞き書き隊代表)
(2024/8・9月号)

① 写真付きで記事が掲載され、「笑顔がいいですね」「公民館通信に載っていた人ですね」と言われたりで、

ちょっと気恥ずかしい気持ちになりました。

② 毎月1回多摩市内の特養を団体メンバーと一緒に訪問活動を行い、語り手をして下さった入居者さんに「聞き書き」本を差し上げています。また本年1～3月には「聞き書き」ボランティア養成講座を開催しました。3月の「たまボラテラス」にも出店し、私たちの「聞き書き」活動も少しずつ浸透してきています。

③ 『たのしいまち』は参考になる各種情報が満載で、役立っております。

桜・梅・桃の見分け方 - 永山の楽ちゃん -

コラム え・と・せ・と・ら

青年海外協力隊員としての任期を終え、太平洋に浮かぶ小さな島国・パラオより帰国。4月より職場復帰した。今回はふた月前に遡って、パラオでの送別会と「MUR」についてお伝えしたい。

事の発端は、勤務先の小学校 PTA 保護者会。私のために「MUR」をしようと元州知事が発言されたことが始まりだった。「MUR」(ムル)とは、パラオ語で「特別な日のため用意するご馳走」のこと。世界で二番目に肥満率が高いといわれるパラオでは、「何を食べるか」がとても重要で、そのため、送別会1カ月前にミーティングが行われた。送別会と「MUR」、それぞれのメニュー決定のために約3時間かけて話し合い、誰が何をどれだけ用意するという役割分担をした。参加対象者は、学校関係者や州の住民を含めて約200名。土日になると漁や猟に繰り出して魚、蟹、亀、豚、鳥 etc を捕まえ、畑に行きタロイモやタピオカ、ココナッツ等を探り、ものすごい勢いで200食分の準備が進む。

そして、送別会当日。名誉ある感謝状を、アイメリーク州からいただいた。その後、食事タイムに突入。私と私の友人が座るゲスト席だけに、パラオ人が本気で用意した「MUR」が用意された。1匹1万円を超えるようなマングローブ蟹やたくさんの魚、貝、ココナッツのデザート。アイメリーク州外から呼んだ20名ほどの友人は、皆とても喜んでくれた。(ちなみに、「MUR」を準備したパラオ人は「MUR」を食べない。それもパラオ文化のうちの一つ。) ご馳走の後には、もちろんパーティタイム。パラオのパーティは長く遅い。なんと深夜2時頃まで、歌い、踊り、食べ、飲み…と続いたのであった。

感謝状も「MUR」も大変珍しくありがたいことと知り、感謝の思いでいっぱい。任期もあと1カ月。(ニーチェ)



↑ MUR のご馳走



↑ カラー版はこちらから

1 今年もピンクの季節がやって来た。3月に雪が降った時は、桜が満開したかと思って、ビックリしたよなー

2 梅 うめこ 1月下旬～咲く。軸がない 1つずつ咲く

3 桃 ももこ 3月中旬～咲く。軸短いのぞう咲く

4 桜 さくらこ 3月中旬～咲く。軸長い いっぱい

5 桜梅桃李 桜らしく、梅らしく、人と比べず個性をみがくことが大事。

6 桜は切り口から菌が入ってダメになりやすいんだ。逆に梅は、ムダな木を切ってやらないと、形がくずれて花や実がつかなくなる。みんな違って、みんないい♡

☆指に傷が1ミリ。あれ、紙で切ったかな、アカギレかなと思ってたら4、5日で成長して、あれよあれよと2センチに。皮がめくられて汁が止まらず、えぐれて身が見えて来た。あなどるな、黄色ブドウ球菌! (楽)

☆ドキドキ初の編集会議。新しい出会いが春を告げる。 (ぼ)

☆ついにF1トップチームに日本人ドライバーが誕生! 発行時は日本GPも終了している頃だろうか。正直なところ、新レギュレーションになる次年度に興味が向いてしまっていたが、俄然楽しみな年になってきた。 (ふ)

☆わあ、編集後記「懐かしい響きに感動!」そして編集委員のみなさんと再会に感激! あらたな気持ちで、公民館通信の情報発信に携われることに感謝。頑張らねば! (は)

☆満開の桜に祝福され入学式。ぴかぴかの1年生 (月)

編集後記

た くわん

の ざわな

り やけ

い ぶりがっこ

ま よっちゃんあ

ち やづけの友